2025年度
小論文

2025年２月１日
北里大学健康科学部

受験番号	W	N	C	2		0					氏名	

【注意事項】

試験問題は，60分です。

１．試験監督による解答始めの指示があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２．この問題冊子は１ページから５ページまであります。

３．試験監督の指示により問題冊子，解答用紙に受験番号および氏名を記入してください。

４．解答用紙記入上の注意

(1) 解答は必ず解答用紙の指定された欄内に，きちんと記入してください。

(2) 解答を訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，書き直してください。

５．問題冊子の余白は適宜使用してもかまいませんが，どのページも切り離してはいけません。

６．試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を高く挙げて試験監督に知らせてください。

７．試験中に問題冊子，解答用紙の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁，汚れ等に気付いた場合は，手を高く挙げて試験監督に知らせてください。

８．試験終了後，問題冊子，解答用紙は，全て回収しますので机上に置いてください。持ち帰ってはいけません。

試験問題は次ページからです。

設問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「気」の疲れ

こういう場合に、はっきり言葉で「伝える」ことだけに割り切ってことを運ぶのがアメリカ流だ。いかにも移民の国である。日本の医療はアメリカの後を追っているのだが、はっきり言葉で言っては角の立つことが多い国柄である。自然に「伝わる」ことを期待して待つほうがいいとされることが多い。狭い土地に住む人間の智恵なのだろう。その結果として、自然に伝わるものを先取りして「気を利かす」ことが重く見られる。「気働き」が重んじられる。そのために「気疲れ」する。実際、日本人の疲労のかなりの部分は身体や頭の疲れでなくて「気」の疲れである。患者は患者なりに、看護師は看護師なりに、医師は医師なりに、気を使っているのが、日本の病院という対人関係の場だといってよいだろう。仲間にも気を使い、他にも気を使う。どの程度使うとよいかは、それこそ「伝え」てくれるチャンネルがなくて、自然に「伝わる」ものに従うのである。

私は、こういう「気働き」が日本の医療の良い面を支えていることを大いに認める。しかし、一方で、職場としての医療の場を窮屈なものにして、働く者の疲労の上に「感情労働」（武井麻子）、「気疲れ」という疲労を積み重ねていることも認める。

実際には、どうなればよいだろうか。気づかいと「心づかい」との違いを考えてみると、気づかいが行きすぎると「世話焼き」になり、心づかいならば表に現われると「親切」になる。そういう意味で、気づかいには、相手との間が円滑に行くようにという配慮が先に立っており、心づかいには、相手の身になって「よかれかし」と思う意向がはたらいている、という違いがある。

私は、どちらが良いとか悪いとか言うわけではない。両方が適当にあって、両方ともあまり表に出ていないのが、日本の職場では良い職場であるのだろう。

日本でも「言ってもらわないとわからない」人はいる。これからだんだんそうなってくるかもしれない。それは、人間の移動がはげしくなると、どうしてもそうなるからだ。アメリカではっきり自分の言い分を主張しないと相手にされなくなるのは、世界中から移民が来て成り立っている社会だからである。行きつくところはマニュアルに有るか無いかと問う世界か。しかし、日本のトリセツ（取り扱い説明書）のわかりにくさは世界的に有名だそうで、これを抜本的に改める動機が思い浮かばない。マニュアルづくりは下手だと認めてかかる必要がある。

相手の気持を察するというのは、村が、家が、何百年もつづいてきた日本の、この間までの社会では、全然むずかしいことではなかった。こういう時にこうするということは、生まれてから身体に染みついてきていることだし、年上の人のやることを真似していれば、かなりむずかしい場面でも失敗しない。そういう社会では自然に「伝わる」ものだけで大丈夫、生きていける社会である。「伝える」場合も、「こういう場合にはこう言葉で伝える」というふうに決まっているから、角が立たない。

今の日本で気が張って疲れるという対人関係が起こりやすいのは、日本が近代化、つまり別の文化を取り入れようとしはじめてからかもしれない。すこしずつ違う氏育ちの人が入り混じって働くようになったからだろう。相手に気を使っても、見当外れということがある。親切にしても、実はかゆくないところを掻いていたという場合がある。「親切がアダになる」という場合も起こる。

こういうことを避けるには、どうしたらよいだろうか。万能策はないけれども、相手の反応を見ながらそっと進めると、大きい間違いはなくなるだろう。

（後略）

出典：中井久夫著　「伝(つた)える」ことと「伝(つた)わる」こと　中井(なかい)久夫(ひさお)コレクション

株式会社筑摩書房　2022 年　267 頁-270 頁　より一部抜粋

問題　著者の主張をふまえ、あなたの考えを身近な例をあげて 800 字以内で記述しなさい。

以上

（余白）